

熊野と吉野

山岳霊場の遺宝

Yoshino and Kumano

Legacies from Sacred Mountain Sites

近畿地方の南部・紀伊山地に位置する吉野と熊野は、ともに日本を代表する山岳霊場として知られています。日本古来の山岳信仰に、仏教、道教、陰陽道などが習合して成立した修験道では、吉野と熊野を結ぶ大峯奥駈道が修行の道として重視され、天台宗系の本山派では熊野から吉野へ向かいながら修行を行なう順峯、真言宗系の当山派では吉野から熊野へ向かう逆峯が行なわれるなど、信仰の拠点となってきました。平成16年(2004)には、そうした歴史と文化が評価され、「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部として世界文化遺産に登録されています。

それから20年目を迎える本年、当館が所蔵する熊野の那智山経塚出土品、吉野の金峯山経塚出土品のコレクションに、吉野・大峯信仰の拠点である奈良・大峯山寺所蔵の大峯山頂出土品を加えて、これらを一堂に展観し、修験道の生み出した特色ある造形の世界を提示します。この展示が、紀伊山地の霊場と参詣道で育まれた豊かな文化を、改めて見つめ直す機会となれば幸いです。

Yoshino and Kumano are two sacred sites located in the Kii Mountain Range in western Japan. Recognized widely as Japan's eminent sacred mountain sites, they were added to UNESCO's World Heritage List as part of the "Sacred Sites and Pilgrimage Routes in the Kii Mountain Range" in 2004.

To commemorate the 20th anniversary of this registration, this exhibition presents objects in the Tokyo National Museum collection with connections to this sanctified region. They include objects excavated from the Nachisan and Kinpusen Sutra Mounds, as well as artifacts that were excavated from the peak of Mount Ōmine and belong to Ōminesanji Temple—the center of mountain asceticism of Yoshino and Ōmine in Nara Prefecture. This exhibition sheds light on artistic forms unique to Japanese mountain asceticism.



1. ◎ 鉤出蔵王権現懸仏 Hanging Plaque with the God Zaō Gongen
奈良県吉野郡天川村 大峯山頂遺跡出土 Found at the Mount Ōmine Peak Site, Nara
銅製 鍛造 鍍金 線刻 平安時代・12世紀 奈良・大峯山寺

修験道で尊崇された蔵王権現を浮彫状に表わしています。左手を腰の位置に置かず、下に下ろすのは珍しい表現です。

2～6. 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山出土品のうち
Objects Excavated on Mount Nachi, Wakayama
平安時代・12世紀
2～4、6. 北又留四郎氏他2名寄贈 5. 白山文次郎氏他9名寄贈

2,3. 無量寿如来像および台座
The Buddha of Infinite Life and Its Pedestal
如来像：銅製 鑄造 鍍金、台座：銅製 鑄造 E-14856・14892

4. 金剛法菩薩三昧耶形
Symbolic Representation of Kongōhō Bodhisattva
銅製 鑄造 鍍金 E-14945

5. 金剛利菩薩三昧耶形
Symbolic Representation of Kongōri Bodhisattva
銅製 鑄造 鍍金 E-14915

6. 金剛因菩薩三昧耶形
Symbolic Representation of Kongōin Bodhisattva
銅製 鑄造 鍍金 E-14876

7. 金剛語菩薩三昧耶形(模造)
Symbolic Representation of Kongōgo Bodhisattva (Copy)
會田富康作 銅製 鑄造 鍍金 昭和時代・20世紀 E-15556
原品：和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山出土
平安時代・12世紀 和歌山・熊野那智大社

金剛界曼荼羅の中心にある成身会を立体的に表わしたものの一部です。脇の菩薩の姿は持物などで象徴的に表わされています。



蔵王権現 Zaō Gongen

蔵王権現は修験道で創出された独自の尊格で、金剛蔵王菩薩などとも称します。修験道の開祖とされる役行者が吉野の金峯山での修行中に岩の中から湧出したと伝えられ、釈迦・千手観音・弥勒の徳を兼ね備えているとされています。通例一面三目二臂で、金剛杵を持った右手を振り上げ、左手は腰において剣印を結び、左足で磐石を踏みしめ、右足を大きく蹴り上げる姿で表わされます。髪を逆立てた極忿怒の尊容は厳めしく、躍動感と迫力に満ちています。

参考

24. ◎ 線刻蔵王権現像

The God Zaō Gongen

奈良県吉野郡天川村金峯山出土 銅製 鑄造 線刻 平安時代・長保3年(1001)
東京・西新井大師総持寺

蔵王権現とこれに従う眷属を表わした大型の鏡像です。背面の銘文より、製作年代と宮中の内匠寮で作られたことがわかるのは大変貴重です。

鑄つぶされそうになった国宝

西新井大師総持寺に伝わる線刻蔵王権現像は、比類のない大型の鏡像で、銘文より製作年代と宮中の内匠寮での製作が明らかとなる重要な作例です。その優れた尊像表現には宮廷絵師の関与が指摘されており、絵画作例の空白期を埋める点でも貴重な存在です。現在国宝にも指定されているほどの名品ですが、過去には鑄つぶされそうになったことがありました。

明治初年(1868)、新政府によって神仏分離が進められ、大峯山でも寺を廃して金峯神社の奥宮と称した時期がありました。その後、明治19年(1886)に仏堂としての復活が許されると伽藍整備が行なわれ、山上寺務所の建立のため山上本堂前の土地を開発した際に、大量の鏡などの遺物が出土したと伝えられています。これらは山上本堂に納められていたのですが、日露戦争で金属類の需要が高まった際に売却されたようです。それらの一部は今日各地に分蔵されている、いわゆる金峯山経塚出土品に当たるとみられています。

No.24の鏡像も東京・日本橋の地金問屋、栗谷吉次郎氏の手に渡ったものの、鑄つぶされる前に栗谷氏によって見出されました。そして栗谷氏によって明治38年(1905)5月15日に西新井大師総持寺に寄進されたことが背面に記された銘文からわかります。こうして金峯山信仰のなかでも記念碑的な大作は、この世に残されたのでした。



各図版には、作品番号、指定(●は国宝、◎は重要文化財)、材質技法、時代・世紀等、所蔵先、または寄贈者名等、当館所蔵番号を付しました。

吉野

Yoshino

金峯山 経塚

Kinpusen Sutra
Mound

大峯山寺の山上本堂付近では、元禄4年(1691)に、現在国宝に指定されている金銅藤原道長経筒(奈良・金峯神社蔵)が出土したと伝えられているように、江戸時代から経塚にかかわる遺物が見つかっており、明治時代初めの神仏分離の混乱や、その後の寺堂の再整備に際しても多くの遺物が発見されました。これら正確な出土地のわからないものは、便宜的に「金峯山経塚出土品」として今日扱われています。その多くは、明治37～38年(1904～05)頃に寺を出て、諸家に分蔵されています。



8. 銅板鋳出蔵王権現像

The God Zaō Gongen
銅製 鍛造 鍍金 線刻 平安時代・12世紀 E-19981

役行者が金峯山で修行している際に顕現したとされる蔵王権現を、通常とは逆の左手・左足を上げる姿で銅板に打ち出しています。



9. 線刻水分三神鏡像

Mirror with Three Gods
銅製 鍛造 線刻 平安時代・永承6年(1051) E-15155

吉野地方で信仰された子守明神を、女神(中央)、男神(左)、僧形神(右)の姿で表わした鏡像で、銘文より製作年がわかります。



10. ◎ 白銅蓮池文磬

Ritual Gong (Kei) with a Lotus Pond
銅製 鍛造 平安時代・12世紀 E-19890

仏事の際に木製の架台に懸けられ、合図として撥で鳴らされる磬の遺例で、地に蓮池文が表わされるのは珍しく、大変貴重です。

8～10. 奈良県吉野郡天川村金峯山出土品のうち

Objects Excavated on the Kinpu Mountain Range, Nara

大峯山頂 遺跡

Mount Ōmine
Peak Site

大正11年(1922)に大峯山寺山上本堂の南方の井戸から山上寺務所への水道工事を行っていた際に、寺務所の南方15間(約27～28メートル)のところから経筒や鏡、鏡像、懸仏などが大量に発掘されました。翌年にも、その付近から同様の遺物が大量に発見されており、これらの出土した場所は金峯山山頂遺跡あるいは大峯山頂遺跡などと呼ばれています。現在、大峯山寺が所蔵し、当館が寄託を受ける一群は大正12年の出土品です。



11. ◎ 線刻中台八葉院鏡像

Mirror with the Eight-Petal Court
銅製 鍛造 線刻

密教で用いられる胎藏界曼荼羅の中心にある中台八葉院を線刻で表わした鏡像です。損傷が惜しまれます。



12. ◎ 銅板経残片

Tablet with Sutra Text (Fragment)
銅製 鍛造 線刻

銅板の表裏に「法華経」の経文を刻んだ銅板経の残片です。より確実に經典を未来に伝えるため、紙ではなく堅牢な金属に表わされました。



13. ◎ 銅板鋳出蔵王権現像

The God Zaō Gongen
銅製 鍛造 鍍金

銅板を前後に2枚貼り合わせ、レリーフ状に蔵王権現を表わしています。左足に心棒が残っており、立てて礼拝したと推測されています。

11～13. ◎ 奈良県吉野郡天川村 大峯山頂遺跡出土品のうち Objects Excavated from the Mount Ōmine Peak Site, Nara
平安時代・12世紀 奈良・大峯山寺

熊野

Kumano

那智山 経塚

Nachisan Sutra
Mound

大正7年(1918)に、3回にわたって熊野那智大社の別宮で那智の瀧をご神体とする飛瀧神社の参道、現在鳥居の建つ付近から遺物が

出土しており、経塚に関する遺物が多かったため「那智山経塚」と通称されています。大治5年(1130)の奥書のある『那智山瀧本金経門縁起』と出土遺物は一致するところが多く、金字経(未発見)とともに仏具や金剛界曼荼羅の諸尊が埋納されたものと推測されます。このときの遺物のほとんどは東京国立博物館の所蔵となっています。



20. 金銅柄香炉

Incense Burner with a Handle
銅製 鍛造 鍍金 平安時代・11世紀
北又留四郎氏他2名寄贈 E-14933

手に執りやすいように柄が付いた香炉です。仏教法会などで用いられました。香は花や灯火とともに、仏を供養するのに欠かせないものでした。

14. 銅宝塔鈴

Bell with a Jeweled Pagoda
E-14869

15. 銅宝珠鈴

Bell with a Wish-Granting Jewel
E-14874

16. 銅五鈎鈴

Bell with a Five-Pronged Vajra
E-14871

17. 銅三鈎鈴

Bell with a Three-Pronged Vajra
E-14868

18. 銅独鈎鈴

Bell with a Single-Pronged Vajra
E-14870

五つ一組で用いられた五種鈴の遺例で、それぞれ先端の形が異なります。一組で密教の祈禱などに用いられました。



19. 銅錫杖頭

Head of a Monk's Staff
銅製 鍛造 奈良時代・8世紀 北又留四郎氏寄贈 E-14896

僧侶や行者が山野を歩く際に用いた錫杖の頭の部分です。簡素な中に力感が漲っており、製作が奈良時代に遡る可能性があります。

14～20. 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山出土品のうち Objects Excavated on Mount Nachi, Wakayama
14～18. 銅製 鍛造 平安時代・12世紀 北又留四郎氏他2名寄贈

熊野三山

The Three Shrines
of Kumano

熊野三山は現在の和歌山県熊野地方に所在の霊場で、本宮(熊野本宮大社)、新宮(熊野速玉大社)、那智(熊野那智大社)の三所がこれに当たります。古くから聖地として崇拜され、平安時代後期のいわゆる院政期に、上皇による熊野詣が頻繁に行なわれるにつれ信仰を集め、そのさまは「蟻の熊野参り」などとも称されました。本宮は阿弥陀如来、新宮は薬師如来、那智は千手観音が本地仏(日本の神の本来の姿)とされ、その土地はそれぞれの仏の住まう浄土と見做されました。



21. 線刻千手観音鏡像

Mirror with the Thousand-Armed Bodhisattva Kannon
E-14864

長方形の銅鏡の鏡面(顔を写す面)に、線刻で那智の本地仏である千手観音を表わしています。



22. 線刻阿弥陀如来鏡像

Mirror with the Buddha Amida
E-14862

本宮の本地仏である阿弥陀如来を表わした鏡像です。穏やかな像容は平安時代後期という時代の雰囲気を反映しています。



23. 線刻薬師如来鏡像

Mirror with the Buddha Yakushi
E-14863

新宮の本地仏である薬師如来を表わした鏡像です。阿弥陀如来、千手観音とともに3面一組で用いられたものでしょう。

21～23. 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山出土品のうち Objects Excavated on Mount Nachi, Wakayama
銅製 鍛造 線刻 平安時代・12世紀 北又留四郎氏他2名寄贈